

新潟県五泉市の活性化

－若者の流出を防ぐには－

布施 海斗

筆者の地元である新潟県五泉市は新潟県のほぼ中央、県都新潟市の南東に位置する、人口約5万人の市である。過去10年間に3回行われた市民アンケートの結果では、働く場が確保されていないことが問題となっていた。五泉市は若年層失業率が高い。そこで筆者は、雇用の場を求めて若者が市外へ流出しているのではないかと考えた。五泉市の若者の流出を防ぎ、どのような地域活性化が望ましいのかを明らかにすることが本研究の目的である。具体的には、五泉市長をはじめ、友人3人にインタビューを行い、五泉市の今後について考察した。

まず、五泉市住民である友人にインタビューを行った。ここでは五泉市内外に勤務を決めた理由や五泉市に求めること、五泉市に留まる理由をインタビューした。五泉市に勤務先を決めた理由は、「生まれ育った町に恩返しをしたい」「家族と離れたくない」といった理由であった。五泉市外に勤務先を決めた理由は、「自分のやりたい業界で魅力のある職場が市外にあったから」と述べていた。五泉市に求めることは、ファミリーレストランなどの気軽に食事ができる飲食店の増加を求める声があった。五泉市はスーパーや薬局などは多くあるが、子ども連れの家族が気軽に入れるようなファミレスは無く、居酒屋が多い。また、交通の便が悪いといった声も上がった。どこに行くにも車が必要である。「家族や友人がいるから」というのが、五泉市に留まる最大の理由であるようだ。

次に五泉市長にインタビューを行い、大きく分けて5つの質問をした。1つ目は五泉市の「働く場」に関する問題についてである。この問題は今に始まったことではない。平成の頃はニット産業が盛んであったが、ニット産業が衰退した現在は、介護職が増えてきている。市長は「働く場」が無いというのではなく、「自然豊かな地で生活を楽しんで子育てをするなど暮らしの視点を変えて欲しい」と述べていた。2つ目は市長が考える五泉市の問題点である。市長は「発信力が弱い」こと、「五泉市の良い部分を当たり前だと思っていることが発信力に欠ける原因ではないか」という点を問題点として挙げた。3つ目は市長が思う人材育成である。これは「実際に働いている姿を見せることが一番の人材育成」だと考えている。五泉市の問題点である発信力の弱さを改善し、自信をもって良さをアピールすることが、後継者や若手社員への人材育成に繋がると考えていることがわかった。4つ目は五泉市が最も力を入れていることを伺った。「ファミリー住まいる事業と子育て環境、教育環境」に力を入れているということであった。ファミリー住まいる事業とは「新婚世帯」や「子育て世帯」を支援する事業である。この事業により、10年も経たないうちに約700人もの方が五泉市に移住している。5つ目は五泉市の今後の展望についてである。市民に五泉市の良さを理解

してもらい幸せを感じてもらふこと、さらに、1つの問題だけではなくあらゆる問題を解決し五泉市民の満足度を高めていくことが挙げられた。

筆者は当初、企業を活性化させることや企業誘致をすることが必要だと考えていた。しかし、市長は視点を変えて生活してほしいという考えであった。「住む場所は五泉市、『働く場』は市外」というように、生活のエリアを広げて暮らしていくことも地域を維持する方法であることが明らかになった。